

海外からみた 福島原発事故

2011年 5月19日
秋田大学 村上 東

外国のひとはなぜすぐ逃げたか

● 情報の質と量の格差

西ヨーロッパまで広がっていたチェルノブイリの被害
環境団体(緑の党など)が国会議員になっている

● マスコミ、メディアを信じない市民たち

日本よりもまともな報道もある

例: ニューヨーク・タイムズにもヘレン・コルディコットの投稿が載る。
内部被曝の恐ろしさなどを指摘。

<http://www.nytimes.com/2011/05/01/opinion/01caldicott.html?hp>

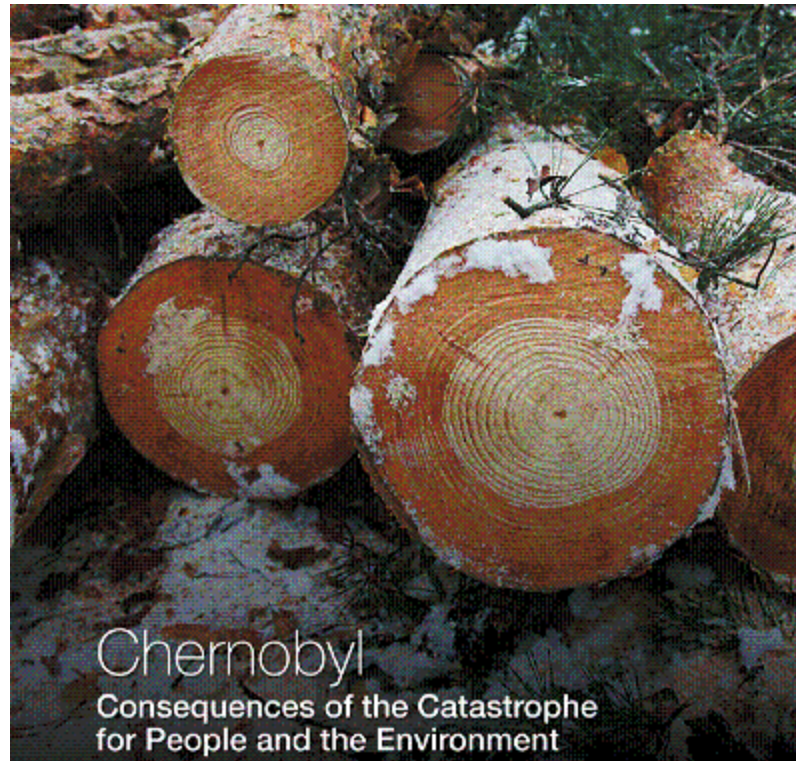
私たちは放射能の被害を 知っているか

広島と長崎。では、それだけ？

核兵器工場や原発の周辺、核実験場、劣化ウラン弾被災地などにも被害がある。

そのような悲しい経験から福島原発事故対策に役立つことを学ぶ必要

チェルノブイリ惨事の真相



*Chernobyl: Consequences of the Catastrophe
for People and the Environment*
(the New York Academy of Sciences, 2009)

ベラルーシ他：事故前は**90%**が健常児だが、2000年には**20%**を下回る(42頁)

各国の調査を総合すると(210頁)：

「1986年4月から2004年末まででチェルノブイリ惨事による死者の総数は**985000**人と見積もられる」

さまざまな**動植物の異常**も報告されている

This book can now be downloaded from the following website for free: <http://www.llrc.org/index.html>